なんでもインフォ 2014. 1

本年も株式会社昭和土木設計ならびに「なんでもインフォ」をよろしくお願い致します。

発 行　株式会社 昭和土木設計
岩手県矢巾町流通センター南４丁目１−23
E-mail　suzuki@showacd.co.jp
Tel 019-638-6834　Fax 019-638-6389

～ 気になる海の施設について～

はじめに

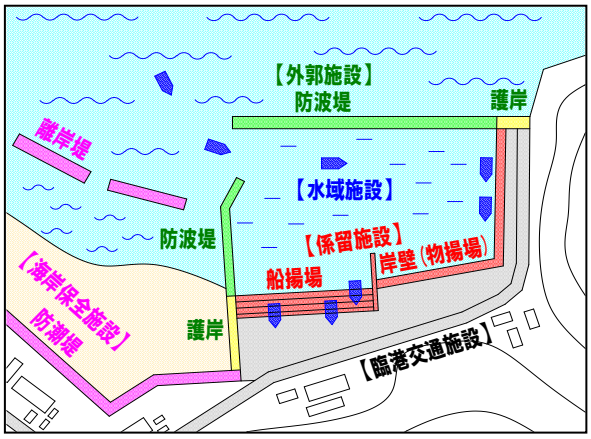
今年は2011年の東日本大震災の発生から３年となります。現在、地震や津波により被災を受けた海岸施設は、瓦礫の撤去・応急復旧により、漁業や貨物の積み下ろし等が再開しています。しかし、施設の本復旧にはもう少し時間がかかりそうです。

復旧が行われている海の施設は日常生活で「防波堤」や「岸壁」など、一度は聞いたことがあると思いますが、実際の施設の正式な名称・役割については確認する機会は少ないと思います。

今回のなんでもインフォは海の施設について、名称や役割を紹介したいと思います。

施設の構成

日本は海に囲まれており、多くの港湾(国交省所管)や漁港(水産庁所管)、海岸保全施設などが見られます。これらの施設は地形を利用した構成となっており、簡易的に表すと下図のようになります。



施設概要図

外郭施設

【主な施設】防波堤・護岸・防砂堤

外郭施設とは港湾や漁港内の係留施設、水域施設、臨港交通施設等を波、漂砂、潮汐、河川流、風等による悪影響から防護するための施設です。

防波堤：港内への波の侵入を遮蔽し、波を穏やかにすることで船の安全な出入りを可能とします。

護岸：波浪や高潮、津波により背後地や堤防が浸食されることを防護するための施設です。

防砂堤：漂砂による堆積を防げ、港内の水深を確保します。

水域施設

【主な施設】航路・泊地

水域施設は船舶が出入りする通路や停泊する水域を指します。静穏な水域と、船舶に応じた面積・水深を確保しておく必要があります。

係留施設

【主な施設】係船岸(岸壁・物揚場・桟橋)・船揚場

係留施設は水際に接する施設であり、乗降や陸揚げ、休けい等に使用されます。

なお、係船岸のうち、水深が深い(3m 以上)ものを岸壁、浅い(3m 未満)ものを物揚場と呼んでいます。

海岸保全施設

【主な施設】防潮堤・消波堤・離岸堤・人工リーフ

海岸保全施設は津波・高潮・浸食等から背後地の人命や財産を守るための施設です。

防潮堤：大波や高潮、津波の被害を防ぐことを目的とした堤防です。

消波堤：海岸に沿って設置することで波のエネルギーを弱め、海岸の浸食や砂浜の後退を防ぎます。

離岸堤・人工リーフ

沖合からの波の力を弱め、海岸の浸食を防止するとともに、砂の堆積を促します。

臨港交通施設

【主な施設】臨港道路・臨港鉄道・駐車場

一般的には港湾や漁港等、施設内の道路や鉄道、橋梁、駐車場などを指します。

おわりに



沈下した漁港施設(係船岸)

今回紹介した施設は東日本大震災の津波による直接的な被災の他、広範囲に亘る地盤沈下により、倒壊を逃れた施設でも嵩上等を行う必要があります。

これにより復旧工事は膨大な量の施設を復旧しなければなりません。復旧は平成27年度末を目標として進められていますが、施設のみではなく、沈下した背後地の問題（将来の利用計画・低くなった排水路の見直し等）も同時に解決しながら工事を進めていく必要があります。

株式会社 昭和土木設計の紹介

弊社は，道路・河川・橋梁等の計画・設計，GIS，IT ソリューション等の業務を行っております．
”なんでもインフォ“のバックナンバーについては http://www.showacd.co.jp をご覧ください．

配布者

作成者：コンサルタント事業部
下田　創